

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200319		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム豊		
所在地	福岡県田川郡香春町大字採銅所5384-1		
自己評価作成日	平成27年10月8日	評価結果確定日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当施設は、香春岳のふもと、田園地帯の中にあります。2階建てで、暖かなレモン色の壁の鉄骨造りです。介護付き有料老人ホームとは棟続きで、計38名の方が入居できます。周囲の眺望が大変良く、庭にはベンチを設け季節の移ろいを感じることができる様々な植物を見て楽しむことができます。個別での外出サービス、買い物代行、通院同行、入院中の洗濯物の引き取り等行い、安心して生活できるよう支援しています。看護職員が毎日就労し健康管理を行い、異常があれば直ぐに主治医に報告し早期に対処することを心掛けています。歯科往診が週に4日あり、更に毎食後、口腔ケアを入念に実施しているため、誤嚥性肺炎のリスクが大変低い状況です。また栄養面では管理栄養士がメニューを作り、新鮮で高齢者に優しい食事を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な山林が間近に望め、周囲を田畑に囲まれた自然豊かな立地に「グループホーム豊」はある。国道に面した2階建ての建物で、左右に分かれる形で、有料老人ホームと併設される。各ユニットが1、2階に分かれるが、内部での行き来は自由で、行事や慰問の際などは有料老人ホームの広いホールを使って一緒に楽しむことが多い。併設されることで職員の勤務にも融通がきき、看護師がそれぞれに1名ずつ配置されることで、毎日いずれかが出勤して健康管理や体調の維持に努めている。医療対応が多少必要な方でも受け入れが可能で、現在は喀痰吸引の研修を受ける職員もいる。以前から個別外出に力を入れており、定額の自己負担を設定することで入居者も遠慮なく遠方への外出も楽しんでいる。関係機関に特養や保育園もあり、勉強会や慰問に協力もされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を実践に生かせるよう、定例会議や勉強会で検討し、朝礼時の唱和やレポートでの振り返りを行ってきた。文言は若干長めではあるが、認知症介護とはいかなるものであるのか、要約しており、新人職員にも理解しやすい内容になっている。	玄関と事務室内に掲示しており、毎週月曜の朝礼時には唱和もしている。開設当初から何度か話し合いが持たれ、直近では職員からのアンケートをもとに見直しも行って刷新し、現在は主目的と5つの理念にまとめられた。年度末には話し合いも行い、職員からのレポートも出してもらっている。毎月理念から1つ挙げて目標として特に取り組みにつなげている。	更に理念の浸透を深めていくために、次に予定される職員との話し合いの中で、さらに理念をわかりやすく解釈していくことなどを話し合われてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の社会資源を極力利用するようにしている。地区の区長さんも運営推進会議にはご出席いただき、行事の際には準備などご尽力いただいている。	ボランティアで婦人会の踊りがきており、最近新しく三線の弾き語りの方が来るようになった。地元商工会の祭りや、神社の祭りには入居者と一緒に参加し、町内会には入っていないが地域情報ももらっている。日頃も地域図書館などを活用し、近隣に住居は少ないが目の前の車屋とは避難訓練などで友好的な関係を築いている。	地域の福祉事業所同士の交流も深めていき、相互での運営強化につなげていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや自治体とは日頃より連絡を取り合い、緊急時の認知症の方の受け入れにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催している。その際、委員の方々から頂いた意見を吟味し、サービスの質向上に向け、努力している。	自治会長、民生委員、地域包括、役場職員、家族、利用者代表、地域代表などが参加し、家族は1、2名来られている。写真付きで行事報告を行うほか、状況報告をしており、以前は意見も多かったが最近では少ない。行政情報や地域情報も会議中にいただいております。議事録は以前は家族全員に郵送報告していたが、今は閲覧公開にしている。	行事との同日開催や、防災訓練の後にしたりして、会議参加者に日頃の様子を見てもらってはどうか。また、既に発行しているおたよりの中に議事のまとめを載せることで、伝達の強化がなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には自治体、包括支援センターより毎回出席いただいている。また管理者は今年より発足した、香春町介護サービス事業所連絡会の役員を引き受け、地域の介護サービスの質の向上に努めている。	町が主催する事業者連絡会の役員に、管理者が就任しており、2か月ごとに、行政と共に運営に協力している。介護申請時には窓口を訪問しており、何かあった時の相談も電話や訪問などで気軽にしている。生活保護の方の受け入れに関して相談を受けることもあり、担当者も顔なじみで話しやすい。	毎回発行しているお便りを、行政にも報告することで空き情報や状況などのこまめな伝達に行かされてはどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員の見守りによって自由に庭にできる。心身に危険が及ぶ事象については、検討を重ね、本人、家族の同意の下に実施し、定期的に見直しをしている。	併設の有料老人ホームと棟続きで、玄関はそちらを共通として使っている。日中の施錠はされていないが、事務室の真横のため、見守りやすい。徘徊癖のある方には個別に見守りも強化し、一緒に外出することもある。四点柵の利用があるが、同意書を交わし、経過記録、話し合いも行っている。内部研修が年1回あり、拘束行為に関しての理解も深めている。	現在は見守りによって、離設リスクに備えているが、徘徊リスクの低減や、万が一のために、建物の外側のセンサー配置なども含めて検討が続けられることに期待したい。

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会は毎年必ず、実施している。その際、尊厳や法律についても学べるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、勉強会を開催している。現在1名が成年後見制度を利用している。市町村の勉強会に出席し内部へ伝達研修をしている。	今年発足の事業者連絡会で、専門家を招いての制度の研修会が開かれた。入居後に成年後見制度の活用につながった方がおり、現在も後見人とやりとりしている。パンフレットや資料は一つのファイルにしてまとめて、参照しやすいようにしており、職員も一般的な制度の理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解り易い言語で時間をかけて説明し、理解されているか確認しながら進めている。入所後のトラブルはない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には管理者が応対し、要望を聞いている。極力、早めに対処し、家族へ結果報告を行っている。	家族からの意見は面会時に聞くことが多く、面会の少ない方には、何か報告時に連絡している。2か月ごとに「ゆたか便り」を発行しており、行事報告などを行っている。入居者に対してアンケートも実施し、生活や料理に関する意見も聞き取り、あがった意見は会議で話しあい、対応結果の報告も行った。	現在発行している「ゆたか便り」にアンケート結果も載せて、取り組みの報告に活かしてはどうだろうか。また、家族参加の行事を増やしたり、家族会を企画することで、より家族の意見が反映される機会が作られることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回管理者会議を開催。会議内容は職員からの要望や提案、意見が書かれた「管理会議に取り上げて欲しいこと」ノートに添って進めていく。議事録がまとまった時点より、決定事項が実施される。	毎月の管理者会議にリーダー職以上が参加し、併設の有料施設を含め、全体での意見共有をしており、議事録は回覧で通知している。3、4か月に1回は全体会議もあり、日頃は連絡ノートに記載して意見を上げている。職員からのレクの提案などは活発で提案に対する結果や改善報告は議事録で行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者が作成する職務評価表を確認し適正な評価が出来る様になっている。職員の能力、就労状況に見合った報酬体系を構築、キャリアアップのための研修参加を促している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	左記のとおり実施している。翌月の勤務表を作成するにあたっては、公休希望を極力受け入れるようにし、旅行や家族サービスができるよう配慮している。	男女で、20～60歳代の職員がおり、無資格の職員も入社後に、勤務扱いで資格取得を支援し、外部研修の案内、参加もされている。職員は得意なことや好きなことを業務に活かしており、自分で立てた目標を元に自己評価や上長からのフィードバックもなされている。希望休暇の取得や、休憩時間、場所の確保もされている。	

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年勉強会のテーマとして掲げている。人権の意味を十分理解し利用者の尊厳を大切にできるよう理念にも位置づけし、学習している。	理念の中で、「利用者の尊厳～」や、「のびのびと個性を生かした～」などを掲げており、入居者の人権に配慮している。勉強会でも倫理規定や認知症高齢者の理解などを学んでいるが、直近では外部研修の参加はなかった。	行政の行う人権関連の研修参加や、外部研修参加時の人権学習のカリキュラムの資料回覧、伝達などで新しい見地がもたらされていくことにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容によっては勤務扱いとし、職員の能力に応じた研修を受ける機会を提供したり、資格取得を促すなど自己研鑽できるよう配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の香春町介護サービス事業者連絡会、田川市郡のグループホーム専門部会の会員となり、同業者と意見交換などを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設の概要、サービス内容等細かく説明するとともに、利用者の身体状況を勘案し、利用者に適した生活環境が整うか検討したうえで契約を締結している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族はどのようなことで困っていたのか、また望む介護サービスとは何かを知り、入居後の生活環境の変化がもたらす心身の状況等、マイナス要件も伝え、納得して入所できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所よりも在宅を優先した生活が理想ということを前提に、相談を受けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃利用者からは仕事への励ましの言葉や通勤途上での注意喚起など頂き、互いが共に生活しているといった雰囲気の中で日常を送っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは十分に話し合い、連携をとりながら利用者の生活を納得いくものに行えるよう努力している		

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで家でどのような人びとのかかわりがあったのか知り、特に家族には可能な範囲で面会をしていただくなど協力を求めている。	他県まで墓参りに行きたいという方に、泊まり込みで同行支援を行った。家族面会のある方は、外食や、一時帰宅、外泊をしており、準備物や留意点の伝達などで支援している。知人に連れ出してもらって教会に行った方もいた。関係の疎遠な方には事業所から支援して、馴染みの場所への外出をすることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流できるよう共有スペースと時間を設け、時には職員も入り、楽しく過ごせるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除に至り、入院されても、家族の求めに応じ、洗濯物交換や日用品を購入代行し届けるなど支援している。身寄り		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の場であるため、時間を気にしなければならない日課もあるが、本人の意向を確認しながら援助している。	センター方式の一部を使うこともあるが、基本的には事業所の様式を使ったアセスメントを行っている。アセスメントは随時変化があった際や、1年定期の見直しをしており、主に各ユニットの計画作成担当者が受け持っている。初回入居時は短期間での見直しを行い、現場からの意見もアセスにつなげている。	フェースシートなどの基本的な情報は変化があった際の見直しに留めているが、介護更新時や変更時などで定期的な見直しがなされることにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族に面談し、サービス開始とともに生かせる情報収集を心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当職員を配置し、日頃の様子を把握し、変化に早期に気付けるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護職員：利用者の割合は1:3とし責任を持って担当している。モニタリングはケアプランに添って、状態変化時と3~4ヶ月に1回、担当者会議を開催する都度、実施し、生活の質が少しでも向上できるよう努めている。	職員担当は居室担当を設けており、入居者ごとの個人ファイル作成を行っている。プランは計画作成担当が作り、3、4か月で見直し、その際に担当者会議を開いている。プランと日々の記録を同じファイルに綴じこむことで、職員がいつでも記録時にプランが参照できるようにしている。	担当者会議の参加者が限られているため、家族や参加者以外の職員からも意見照会をしたり、医師や看護師などの他職種からの意見も取り入れて、よりチームケアの取り組みにつながっていくことが望まれる。

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録は生活の流れに沿って記載するようにしている。またケアプランを確認しやすいページにセットし、常に計画を意識しながら援助できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望には他利用者に迷惑がかからず危険のない範囲で可能な限り対応している。特に外出については自衛隊航空ショーや行きつけの店など個別に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の要望に応じ、図書館やDVDレンタル店、美容室、整骨院など外出同伴している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医師があれば継続できるよう支援している。	提携医以外のかかりつけ医の希望も可能で、受診も事業所から支援し、送迎も二種免許をもった職員が対応している。看護師が同行することもあり、入居者ごとの受診ノートによって、過去の記録も含めて一緒に管理している。看護師も複数おり、常にいずれかの職員が出勤するようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は看護師であり、健康管理を一元的に行っている。また併設の老人ホームにも常勤の看護職員が就労しており、協力体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	糸田町立緑ヶ丘病院とは医療連携をとり。入院の受け入れが可能である。入院時には情報提供し、主治医より病状の説明がある際は家族とともに同行している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期への要望を伺うことも、情報収集の一部としており、確認している。ご本人が最も安楽な終末期が過ごせるよう、医療連携をとりながら支援している。	今までに3名を看取ったことがあり、重度化の際は、医師、看護師、家族との話し合いの上で改めて検討してもらっている。個々の状態に応じた対応を心掛け、看取り指針も作成している。提携医も24時間の緊急時対応ができるが、入居者にとっての最善の対応を考え、病院を勧めることも柔軟に考えている。	

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の勉強会は毎年2回は実施している。緊急時に使用する器材などは、直ぐに持ち出せるよう解り易く整理して保管している。消防署で開催されている外部研修にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	香春町のハザードマップを参考に避難場所を決定している。災害時マニュアルを作成し定期的に勉強会を開催している。	防災訓練は年2回で、消防署の立会いがうち1回、夜間想定訓練も1回している。消防署からのフィードバックもあり、運営推進会議で報告している。水や米などの備蓄物、スプリンクラーもあり、2Fも外階段があるので避難はしやすい。目の前にある車屋さんが毎回訓練に参加してくれている。	運営推進会議との同日開催などを検討することで、地域からの参加、協力体制が築かれることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に設け、学習会や各自レポート作成をするなど、尊厳を大切にしたいかかわりができるように努力している。利用者とは近づきすぎても良くない関係が生じることもあり、適度な距離感で関われるよう心掛けている。	親しみやすさとなれ合いを混同しないようなケアを心掛け、気になる言動などは、管理者が後から個別に注意している。内部の勉強会や関係法人との研修で接遇やコミュニケーションについても学び、個人情報やプライバシーに関しても学習している。	お便りや運営推進会議で使用される、個人写真の利用の同意を、口頭や、できれば書面でなされていくことが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わる際は本人の意思を確認しながら行い、拒否がある場合は、理由を尋ね後回しにしたり、休止したり、無理のないようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の方々が生活する集団生活の場所であり、決められた日課はあるが、状況を見ながら極力、ご本人のペースで生活できるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できない部分を補い、清潔感を大切に、一般的に過ごせるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成し、経験の長い調理者が調理している。また定期的に利用者へ、食事アンケートをとり、メニューに反映させている。食事の方付けはお盆拭きやテーブル拭きを手伝っていただいている。	メニューは関係施設の管理栄養士が管理し、併設の有料施設と共同で専任の調理専門職員が昼夕を準備している。食材は配達で、地元の食材店からも仕入れている。入居者へのアンケートからメニューへの反映もしており、個別に外食することも。朝は夜勤者が準備しており、入居者も片付けや下ごしらえなどを手伝うこともある。	

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表、排泄管理表等で管理し、異常時は医師の指示を仰ぎ、早期に対処できるようにしている。水分補給時には本人の好みのものを提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。心身、口腔の状態に応じた清潔保持の方法をとっている。毎日、歯科往診があり、アドバイスをいただける状況にある。誤嚥性肺炎も少ない。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を用い、排泄の失敗やリズムを把握し、自立支援を行っている。必要に応じ、夜間のポータブルトイレの使用、トレーニングパンツの使用を行っている。	各ユニットごとに全員分を毎日1枚の排泄チェック表によって管理している。自立した方には自分で排せつしてもらい、後から様子を窺ったりして職員がチェックしている。ケアによって失敗が減ることで、紙パンツから布になり、状態が改善した方もいた。提案は気づいた職員が随時発案して、ミニカンファを開いて話し合っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表等で確実に排泄の事実を確認している。必要に応じ、主治医の指示のもと、下剤の使用や腹部のマッサージ等を実施している。食事内容は繊維に富み高齢者に合わせたものを提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴であり、週4回の午前中、リフト浴が可動する。午後からは普通浴槽での入浴介助を行っている。また、必要時シャワー浴を行い、清潔に努めている。入浴順番が公平になるようにしている。	1Fはリフト浴、2Fはユニットバスで、1F浴室はタイル張りで高級感のある造りである。基本は週2回の入浴で拒まれる方も多いが、時間や担当を変えて働きかけて週2回をキープし、毎朝陰部洗浄、清拭することでも清潔に保っている。皮膚観察の機会にも役立て、必要時には看護師に報告している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は21時としているが、眠れない際はテレビを視聴したり、本を読んだり、個人のペースで過ごしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防止するため、検討に検討を重ね、工夫をして服薬支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理、お盆拭きなど役割を持てるようにしている。また、テレビガイド、趣味の本の取り寄せなど、楽しみの持てる生活をサポートしている。		

H27自己・外部評価表(GH豊)12.11

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食を希望される時は日時を決め、個別に対応している。天候の良い日は近くのコンビニへ車椅子介助で出かけたリ、コスモス園に散歩にでかけたりしている。	気軽に外出を楽しみ、敷地内の庭先でも安全に日光浴をしたり、近くに出来たコンビニやスーパーでの買い物もしている。個別外出は希望に応じて、2か月に1回程度行い、全体での外出は年2、3回程度、季節の花見やお参り、お祭りなどに行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	集団生活の場であり紛失時のトラブルを懸念し、所持金は1万円以内でお願いしている。必要な物は毎日配達にみえるスーパーに前日注文し翌日正午に届く。代金は施設が立替え、翌月に一括請求している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される時は取り次ぎ、静かな場所で会話できるよう配慮している。手紙は代理投函している。また携帯電話を所持されている方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節ごとの壁飾り、観葉植物を飾り、通風や採光、眺めに配慮した生活空間で過ごせるようにしている。	各階のホールを中心に隣接する形で居室が配置されている。床は30cmほどのタイル張りで柱や壁もタイルにされており、高級感を感じさせる。有料老人ホームと共有の玄関には職員紹介の顔写真が貼られ、事業所内にも季節の飾りなどが展示されていた。トイレもホールからすぐ隣接することで使いたい時に使うことができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールの中庭付近のソファはテレビを中心に寛ぎのスペースとなっている。4～5名の方が会話を楽しみ、思い思いに過ごしている。傍に常に人を感じられることができ安心して過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみの家具を持ち込んでいただき、安全な配置で使用できている。家族が宿泊されることはないが、いつでも可能である。	居室はフローリング調のビニール張りで、介護ベッドが標準で備え付けられる。壁紙も部屋によって違うが、かわいらしい花柄の模様などもあった。テレビや仏壇などを持ち込む方もおり、それぞれの部屋作りをしている。窓外の眺めも良く、日当たり、風通しも良かった。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路は広く、手擦りをもうけ安全に通行できるようにしている。トイレ、非常口は特にわかりやすく明示している。		